

特別支援学校における介護等体験での 学生意識変化

——11年間のデータから——

田 実 潔

特別支援学校における介護等体験での学生意識変化

—11年間のデータから—

田 実 潔

Kiyoshi TAJITSU

目次

- I. はじめに
- II. 目 的
- III. 方 法
- IV. 結 果
- V. 考 察
- VI. 結 語

[Abstract]

Study on the Consciousness Change of Students through Nursing Experience in Special Needs and Support Schools

This study investigates the changes in student consciousness through nursing experience in special needs and support schools. Students were given a questionnaire before and after their nursing experience, and using this data, what they learned was clarified. The survey data was analyzed by factor analysis, and the detected factors and each question were analyzed by statistical analysis (ANOVA & t-test). The results showed that the students had a very valuable experience at the special needs and support schools. They especially learned the necessary qualifications to be a teacher through this nursing experience.

I. はじめに

本学では、1998年の「小学校および中学校の教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(以下「介護等体験特例法」)にもとづき、中学校教員免許(本学で取得可能な中学英語と中学社会)について、教員免許取得希望者には3年次での介護等体験が義務づけている。介護等体験については、盲学校、聾学校、若しくは養護学校(当時。現在では3校を特別支援学校と総称)又は社会福祉施設その他の施設で7日間行う、と定められているが(介護等体験特例法施行規則)、内容等についての詳細な規定は定められていない。そのため制度上の問題や法案成

立過程における正当性の問題、実施上の様々な問題が指摘されている(富田2002, 小寺2003)。小寺(2003)は介護等体験の有効性を認めつつも「体験内容の評価」について問題提起をしており、田実(2008)も社会福祉施設と特別支援学校での体験における質的差異の不明確さを指摘している。

しかし、一方で藤本(2003)や前田(2004)が指摘するように介護等体験を終えた学生の感想として、積極的に介護等体験を評価する記述も多く見られている。本学でも事後指導の一環として介護等体験を終えた学生に、感想レポートの提出を義務づけているが、ほとんどの感想文には「新しい発見があった」とか「意義のある体験」、「自分の価値観や考え

キーワード：介護等体験，特別支援学校，アンケート調査

Key words：Nursing Experience, Special Needs and Support Schools, Questionnaire

を改めることになった」、「高齢者の方への接し方が変わった」、「養護学校で見た授業には教育本来の視点があった」、「教師になりたい気持ちが強くなった」等の感想が上がってきている。

このように、中学校免許取得希望の学生達が貴重な体験をしてきていることは事実であり、介護等体験の成果であるとも言えるが、小寺の指摘する教職課程における「介護等体験の必然性」や「体験内容の評価」については、感想レベルでの雑駁な結論しか見いだせていない。また、田実（2008）が指摘するように、社会福祉施設と特別支援学校との両所での介護体験は、そもそもが質的に異なるものであり、特別支援学校の児童生徒に対して『介護』の対象として接することは特別支援教育の観点からは問題となるであろうことから、両所での体験は厳密には区別して検討すべきではないかと思われる。

そもそも、この「介護等体験特例法」は議員立法であるが、その制定趣旨は「将来教育現場で活躍される方々が、高齢者や障害者に対する介護等の体験をみずからの原体験として持ち、またそうした経験を現場に生かしていくことによって、人の心の痛みのわかる人づくり、各人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりの実現に資すること」（1997年5月28日 第140回通常国会衆議院文教委員会）である。このように、介護等体験を教員の資質向上と密接に関連づけて位置づけた場合、やはり介護等体験で学生が得てきたものが真に教員資質の向上に寄与するものであるのかどうか、社会福祉施設と特別支援学校での体験の質的差違はあるのか、ひいては介護等体験で学んできたことをどのように大学教職課程に反映させていくのか、またそのために体験内容に大学がどこまでコミットしていけるのか等、喫緊の課題であると考えている。

Ⅱ. 目 的

「介護等体験特例法」は1998年から施行されているが、本学では3年次生を対象に2000年度から介護等体験を実施してきた。筆者が本学に赴任し、介護等体験の事前事後指導を兼ねてアンケートによる意識調査を始めたのが2003年度である。以後11年間にわたりアンケート調査を行ってきたが、田実（2008）が指摘しているように、当初の理念からこの介護等体験により学生達が何を新たに学び、みずからの教員としての資質向上に意図的に位置づけてきたのか、といった介護等体験の本質論についての研究は多くはない。介護等体験施行から10年以上経過した今、学生自身の教職に対する意識や社会における教職に対する意識等が大きく変化してきている中で、再度教員としての資質向上という介護等体験の理想と現実について考察することを目的として、事前事後指導の一環であるアンケート調査を分析検討することとした。

Ⅲ. 方 法

1. 介護等体験の事前事後指導について

年度当初に3年生を対象に介護等体験希望者への事前指導を行い、諸注意や社会福祉施設、特別支援学校についての概略説明を行っている。この事前指導の際に、事前アンケートと事後アンケート用紙を配付し、事前アンケートはその場で回収、事後アンケートは社会福祉施設での体験と特別支援学校での体験が終わった1週間以内に提出させている。これらの提出されたアンケートは教員が保管すると同時に、学生達自らが本学独自の介護等体験事前事後指導チェック票を用いて提出の確認をさせるようにしている。4年生時の教員免許申請時には、介護等体験の申請書とともにこの介護等体験事前事後指導チェック票を添えて提出することを義務づけており、

チェック票の未提出者は教員免許の一括申請を受理しないこととなっている。

2. 対象

中学校免許の取得を希望し、2003年度から2014年度までの11年間に介護等体験を行った431人を対象に、事前と事後の2度調査用紙によるアンケート調査を行った。回収率は100%である。

3. 手続き

2003年度から2013年度までの11年間に介護等体験実習を行った430人を対象に、事前と事後の2度調査用紙によるアンケート調査を行った。これは、介護等体験の事前指導と事後指導の一環であり、回収率は100%である。このアンケート調査は、1) 介護等体験全般に関する項目4項目と、2) 施設等体験に関する項目8項目、3) 特別支援学校体験に関する項目19項目の合計31項目あり、そのうちの特別支援学校体験に関する19項目を分析対象とした。各質問については、とてもはいーはいーどちらでもないーいえいーとてもいい、の5件法で、それぞれの選択肢に順に5

～1点を付加し、データとした。分析の手続きは以下の通りである。

1) 得られたデータを因子分析により因子の抽出

2) 得られた各因子について、事前体験と事後体験の比較 (対応のある t 検定)

3) 各因子の、事前・事後要因×初期 (2003と2004) と後期 (2012と2013) の実施時期による要因の2要因分散分析

4) 3因子を構成する各項目ごとに、事前・事後要因×初期と後期比較という実施時期による要因の2要因分散分析

をそれぞれ行った。また分析に用いたソフトは Windows 版 SPSS である。

IV. 結果

1) 特別支援学校体験に関するデータを、プロマックス回転による主因子法による因子分析を行った結果から、3因子が抽出された。これらの因子を第1因子「意義認識因子」、第2因子「学習効果因子」、第3因子を「教職イメージ因子」とそれぞれ名付けた (Table 1)。

Table 1 特別支援学校体験に関する因子分析の結果

質問項目		因子			
		1	2	3	共通性
第1因子 ($\alpha = .80$)	特別支援学校免許を取得する予定ですか	.847	-.034	.007	.685
	できれば特別支援学校には行きたくないですか	.774	-.108	-.059	.496
	特別支援学校の教師は普通校に比べて楽しそうだ	.589	.060	.068	.417
	特別支援学校の教師は普通校に比べて楽しそうだ	.456	-.164	.105	.159
	特別支援学校の2日間は楽しく過ごせそうですか	.451	.413	.072	.643
	施設の5日間と特別支援学校の2日間を入れ替えるべきだ	.416	.195	-.041	.302
特別支援学校の生徒は普通校に比べて生き生きとしている	.371	.188	.072	.284	
第2因子 ($\alpha = .82$)	特別支援学校体験が教員免許取得に役立つと思いますか	-.219	.849	.099	.593
	教職希望者は必ず特別支援学校を経験すべきである	-.135	.823	.072	.597
	特別支援学校体験はもっと長い日数が望ましい	.184	.651	-.115	.564
	特別支援学校体験の2日間は短いと思いますか	.210	.639	-.140	.570
第3因子 ($\alpha = .83$)	体験で障害児の心理について学べるとと思いますか	.083	-.070	.773	.592
	体験で障害児の教育について学べるとと思いますか	-.028	.107	.758	.628
	体験で障害児の発達について学べるとと思いますか	.035	-.024	.725	.525
	体験で障害児の指導法について学べるとと思いますか	.019	.016	.672	.464

2) 抽出された 3 因子について、特別支援学校体験の事前と事後でそれぞれの因子得点の結果を対応のある t 検定で分析比較した結果、第 1 因子「意義認識因子」と第 2 因子「学習効果因子」では 0.001% の危険率水準で、第 3 因子「教職イメージ因子」では 0.005% でそれぞれ有意差が認められた。いずれも事後の意識で高い得点となっている (Table 2)。

Table 2 各因子の事前事後の t 検定結果

	t値	自由度	有意確率
第1因子(事前-事後)	30.43	418	.00 ***
第2因子(事前-事後)	12.5	426	.00 ***
第3因子(事前-事後)	2.58	426	.01 **

p<.005 *p<.001

3) 事前事後要因と実施時期要因の分散分析の結果、第 1 因子「意義認識因子」の主効果および交互作用、および第 2 因子「学習効果因子」の主効果が有意に認められた (Table 3)。

4) 特別支援学校での体験に関する質問項目を項目毎に事前事後要因と実施時期要因の 2 要因分散分析を行った結果は以下の通りである。項目② (できれば特別支援学校には行きたくないですか) の主効果と交互作用、項目③ (特別支援学校の 2 日間は楽しく過ごせそうですか) の主効果、項目④ (特別支援学校免許を取得する意思があり

ますか) の主効果と交互作用、項目⑤ (特別支援学校体験が教員免許取得に役立つと思いますか) の主効果、項目⑥ (教職希望者は必ず特別支援学校を体験すべきである) の主効果、項目⑦ (特別支援学校体験の 2 日間は短いと思いますか) の主効果、項目⑧ (施設の 5 日間と特別支援学校の 2 日間を入れ替えるべきだ) の主効果、項目⑨

(特別支援学校体験はもっと長い日数が望ましい) の主効果、項目⑩ (体験で障害児の心理について学べると思いますか) の交互作用、項目⑪ (体験で障害児の教育について学べると思いますか) の主効果、項目⑫ (特別支援学校の教師は普通校に比べて楽しそうだ) の主効果、項目⑬ (特別支援学校の教師は普通校に比べて楽しそうだ) の主効果と交互作用において有意差がみられた (項目④と項目⑩の交互作用は $p < .01$ 、項目②の交互作用と項目⑫の主効果ならびに項目⑬の交互作用は $p < .005$ 、それ以外は $p < .001$) (Table 4)。

V. 考 察

特別支援学校での介護体験の意義を示す「意義認識因子」、障害のある子どもや障害そのものについて学べる「学習効果因子」、特別支援学校の任務内容の理解とそのイメージを学べる「教職イメージ因子」のいずれも

Table 3 特別支援学校体験に関する分散分析結果 (事前・事後×初・後)

		F値	自由度	有意確率
第1因子	事前・事後	326.19	1	.00 ***
	経年変化	7.18	1	.01 *
	交互作用	14.19	1	.00 ***
第2因子	事前・事後	63.95	1	.00 ***
	経年変化	2.60	1	.11
	交互作用	1.28	1	.26
第3因子	事前・事後	1.66	1	.20
	経年変化	1.11	1	.29
	交互作用	0.48	1	.49

*p<.01 ***p<.001

体験後の因子得点が有意に高得点となっていることから、特別支援学校での介護等体験は障害や特別支援教育に関する教職志望学生の

理解を促進する効果があるものと考えられる。このことは第1因子の「意義認識因子」や第2因子「学習効果因子」の経年的変化をみた

Table 4 特別支援学校体験に関する分散分析結果（事前・事後×初・後）

		F値	自由度	有意確率
項目2	事前・事後	231.80	1	.000 ***
	経年変化	0.89	1	.346
	交互作用	7.31	1	.008 **
項目3	事前・事後	110.00	1	.000 ***
	経年変化	1.91	1	.169
	交互作用	2.04	1	.155
項目4	事前・事後	346.43	1	.000
	経年変化	9.09	1	.003
	交互作用	6.58	1	.010 *
項目5	事前・事後	18.32	1	.000 ***
	経年変化	0.03	1	.860
	交互作用	1.16	1	.282
項目6	事前・事後	40.83	1	.000 ***
	経年変化	0.01	1	.935
	交互作用	0.00	1	.951
項目7	事前・事後	64.26	1	.000 ***
	経年変化	2.35	1	.127
	交互作用	2.13	1	.146
項目8	事前・事後	26.20	1	.000 ***
	経年変化	1.24	1	.268
	交互作用	1.02	1	.313
項目9	事前・事後	29.50	1	.000 ***
	経年変化	7.43	1	.007
	交互作用	0.81	1	.369
項目10	事前・事後	0.53	1	.469
	経年変化	0.13	1	.716
	交互作用	1.22	1	.270
項目11	事前・事後	0.79	1	.376
	経年変化	0.00	1	.973
	交互作用	3.10	1	.080 *
項目12	事前・事後	7.33	1	.008 **
	経年変化	1.90	1	.170
	交互作用	0.07	1	.797
項目13	事前・事後	0.01	1	.942
	経年変化	2.64	1	.106
	交互作用	0.21	1	.651
項目15	事前・事後	23.95	1	.000 ***
	経年変化	0.04	1	.833
	交互作用	2.52	1	.114
項目17	事前・事後	69.78	1	.000 ***
	経年変化	5.67	1	.018
	交互作用	7.02	1	.009 **

*p<.01 **p<.005 ***p<.001

分散分析の結果にも示されており、2日間といえども特別支援学校における介護等体験は、特別支援学校や障害の理解促進に寄与していると思われる。

質問項目ごとの事前と事後比較における主効果分析結果でも同様の傾向が示唆されたが、項目②の『できれば特別支援学校には行きたくないですか』では事前より事後の方が有意に低い結果となっており、2日間の介護等体験では逆に特別支援教育や障害への興味関心が薄れる場合も考えられた。これは、特別支援学校の2日間の体験内容が主に学校行事の参観やお手伝い的な体験であるケースが多く、特別支援学校の教育内容や実際の支援場면을体験することが少なかったことが考えられる。特別支援学校体験の持つ特殊性に鑑み、学生が特別支援学校体験に求める体験内容のより正確な把握や体験内容の吟味等が今後の課題となるであろう。

VI. 結 語

介護等体験は、社会福祉施設体験と特別支援学校体験に分けられるが、本研究では特別支援学校体験のみに限定して分析を行った。2007年度から特別支援教育が始まっており、その理念として、障害の種別に関わらず全ての児童生徒に対して、地域の通常学校でインクルーシブな共生教育を進めていくこととされている。そのため、従来は障害のある児童生徒はより専門性の高い(特別支援教育教員免許を保有している教師の多いとされている)特別支援学校(当時の養護学校)で教育を受けていたが、特別支援教育では一般の通常学級や学校でも障害のある児童生徒が多く入級・入学するようになってきた。このことは、特別支援教育の教員免許を保持しない教員も障害のある児童生徒の支援ができることが望まれ期待されることを示している。その意味でも、介護等体験での特別支援学校での体験は、多少なりとも意味のあるものであると思われ

る。十分な体験になっている訳ではないが、問題意識や障害のある児童生徒の理解等について、学ぶなんらかの契機となることを期待したい。

本研究の一部は、第52回日本特殊教育学会において発表した。

文 献

- 富田新(2002)：介護等体験を教師教育にどう生かすか。教師教育研究, vol15, pp47-61. 全国私学教職課程研究連絡協議会。
- 小寺慶昭(2003)：「介護等体験」実施上の問題点。教師教育研究, vol16, pp41-49. 全国私学教職課程研究連絡協議会。
- 田実潔(2008)：介護等体験による学生に意識変化について－教職志望学生が介護等体験から学ぶもの－。北星学園大学文学部論集, vol45, No.2, pp73-82。
- 藤本典裕(2003)：介護等体験への取り組み－東洋大学の場合。教師教育研究, vol16, pp51-61. 全国私学教職課程研究連絡協議会。
- 前田輪音(2004)：介護等体験実習の体験内容の検討。北海学園大学学園論集, vol120, pp23-38。
- 田中敦士(2005)：介護等体験に対する受け入れ学校・施設側の認識。日本特殊教育学会 第43回大会発表論文集, pp526。

